



明化の教育

7月号 (第469号)
令和元年6月28日
文京区立明化小学校
校長 溝畑 直樹

伝統が受け継がれる瞬間

校長 溝畑 直樹



運動会の大玉送り

『7点差』…赤白両組が一日、様々な演技・競技に取り組み、運動会全体の得点1269点を取り合った結果は、わずかに7点差での決着でした。一時は赤組に80点近くリードされた白組でしたが、粘りに粘って得点を重ね、いよいよ最後の競技、大玉送り。これに勝利した組が優勝旗を手に入れます。両組互いに譲らず1勝1敗で3回戦に突入。スタートの合図と同時に、両組の子供たちの願いを乗せた大玉が勢いよく転がり

始めます。様々な学年の手によって運ばれた大玉は、ついには6年生へと渡り、赤白ほぼ並んでゴールに一直線。「ただいまの勝負…」のアナウンスに固唾を飲む両応援団長は、この運動会期間中いったい何時間声を出し続けたのでしょうか。祈るような表情です。「白の勝ち!!」飛び上がって歓声を上げる白組応援団長Mさん。グラウンドに倒れ込む赤組応援団長Iさん。そして、両者の健闘を称えるかのように会場を包む大きな拍手…。

6月1日に行われた、現在の校庭で最後となる運動会は、このクライマックスシーンに象徴されるように、子供たちの懸命な姿が随所に見られる素晴らしい運動会でした。そしてその子供たちの力を引き出してくださったのは、児童席のテント設営に始まり、様々な場面でこの運動会を支え、最後まで子供たちを励まし、大きな声援を送っていただいた保護者・地域の皆さまの温かなお力添えでした。心から感謝を申し上げます。

片付けがすっかり終わり静かになった校庭で、「そうだ、校舎にお礼を言おう。」と見上げましたら、そこには『明化の子供はやり通す』の言葉。89年間にわたって学校を見守り続けたこの校舎も、今日子供たちに力を与えてくれたのだと思うと、胸がいっぱいになりました。



明化の子供はやり通す

伝統の全力掃除



5年生は6月13日から2泊3日で八ヶ岳移動教室を実施しました。お天気にも恵まれ、清々しい高原の風に吹かれながら、1年で最も気持ちが良いシーズンといわれる八ヶ岳を満喫してきました。

そして迎えた最終日。子供たちが手に手に雑巾を持ち、『明化伝統の全力掃除』が始まりました。5年前、当時の5年生がとても熱心に掃除に取り組み、宿舎の方から「こんなにきれいにしてくれた学校は初めてです。」と褒めていただいたことがありました。この話は代々5年生に引き継がれ、「宿舎を徹底的にきれいにして帰る」ことが明化の伝統となりました。約1時間、隅から隅まで拭き掃除をし、流しに水滴一つ残さずに磨き上げる子供たちを見て、頼もしさと感謝の気持ち、そして「学校での掃除も同じようにきれいにしてね。」の思いも湧き上がってきました。

一学期も残りわずかです。今学期も学校の教育活動にご理解・ご協力をいただき本当にありがとうございました。

仲野あづさ主幹教諭は、出産のため6月29日からお休みに入ります。
臨時的任用教員として桑原千津子(くわはら ちづこ)教諭が着任し、3~6年の算数少数人数指導を担当いたします。
また、教務主任は松永祥和主幹教諭が担当いたします。仲野先生、元気な赤ちゃんをみんなが待っています。